百笑

下

遠
1818
2

13
遠
1818

開卷百笑卷之下

立川談洲樓馬撰

唐女

山徳作

今ハ昔紀貫之松浦潟へ唐船一艘罷せこり浦人たち見物
のため宮女とおぼしき人て羅綾れたりと錦の袖花の顔をせ
まだ人ぞやとて見ちらもはへ唐の女ごとの八日本人くなむかたん
のこゝろやりくとつくとも唐ゝ唐バこと女中ゝ衣冠を

たゞ今さ二人が葬じよのおふくろでもついそ葬さのゝとの穴ハ夜女ハ六くと
いふてむかへにまんか

王子

桃多楼
語昔作

色ゝ死去人のなかに渡り初りの稲に毛中ゐをたのまれ王子村稲荷
ニ参り深川小本郷のひしや世話で狐乃皮をたゞ二人に尾尾を見せる
筒にしたのを実是でもふるのふ去ハ前と海さの小麦の芽をとつ
子供がこ手にかけたせるとあまり被紙に包て入日も書方にのなく行
けバ加るを売りまはす大松くるといふ市谷といふ所で二百下さりませ
いるのを百かへ言へいふてかどりかこでもないまり安いが旦那

おまさいハあるまゐそふおのりとのせてだん／＼お宗の小礼知らずいさいそれで
甲く加るがゆかる葬しにがの尻尾のきゝる筒が羽織合かしありまた近
様かん多てたてゝ所様狙ちよつとつんやとめくだせてくさん今か
なそでもちおめさんハ王子へおまめはしたとおりにあやめたが市谷かと二丁余
また茶の王の稲荷の近所迄が極て様狙ことし使合でかでもそ
旦那ハお飯のがござりませんがお飯のとハ酒よちイ工りつたいねへでがす
夜の狗をとどしてなどそ福をの授ケ下さりませといふなる頂戴やす
きつねくるとれバ拝める筒がござりそうなでもしろ物ハとてゝろへはじめになりて
おまへハ文半田稲荷近所てるおりつるべえ田苦労でござりますといふなち

市谷へつきバ太義し其方たち之を毛と唐の筆を一ッ先で出れむ。かく有がらいと跡ぶしも女かきれバよ水すをうみて狐三匹も今のをうみえたちサレバ今ハ老人に古だんぶかる也

○三人男

橘々亭　萬羅維作

今ハ昔仇ある女夫に分して並び男三人有りけり。ある時老人のみやび男来りし折ひ又老人の男来て寝て居る所をはきぐけ驚き見めハふとい男だおれが身ごろしている女をよくもあやまったと言いせたと泣ぬが色を立て居るをたかる者どもらが我が子だとかつえ合いる所へ亭主帰りもはや子したる夫人の因果を尋ね亭主とこ

かなかくれハ十百年めぐらうがもねへるだんなの女を三年色をして居る夫にハいつが大事を取らずかわがってんしねへで見ろねが三年もけバおらア五年代みでしみさア間男にちがいねひ是といえるおれにきたなくれうをしの子のなんのと見といえバ亭主こそくハ二年ろ三年のとくハなくなった味噌をあげやアがるがおれハ此の女を女房に十年して居る

俊寛

白寶舎　晋日家作

今ハむかし中宮御産の御祈によって非常の大赦行ける鬼界が嶋の流人丹波少将成経平判官康頼二人赦免にして船にのせて

こゝにあるは後覽一人の跡に殘り磯ぢかに伏まろびいる和人の千鳥ヶ淵より揚よせるや全ハこゝ[illegible]たと知るべやアチラ[illegible]
二人ハおのゝあつて起うとする早く呼ろ〳〵やと立ハ[illegible]と十島ら岩の
上へうきを上りるくこゝ[illegible]むう[illegible]のふ[illegible]

伊勢桑名　　紫雄作

下雅子供よゝ合コレ作松どんおいせ形の太こをうんそうさん
おをたんと喰とよ[illegible]ぬけ[illegible]りを
してだいゝをうちとそこ〳〵の[illegible]ゝ人をたのみぢぎんむ
さらくお所の名ハ[illegible]おすべハ[illegible]山田のお所をたづねてお[illegible]

中まはしの代おごこかゝござりるが江戸花菖の伊勢屋ゝ
ムゝりはしさ太こをうちとゝござります。こゝハよの[illegible]旧冬く[illegible]
しゝ付おをしもせうたが存寿で無るの沒ら大せい出生ハ立秋
二人ハ[illegible]やとう角淺草文ゝ紙に包モノ是で太こを[illegible]ゝ
すこゝをゝ子ハまぢかちゞつるかコレそつちれ旦那の太々ハ五十両
ざゝとして二十五両ざとんだるをいとゝ行松どんどうせう
モシそんなゝ[illegible]百でゝそがゝずハきんがんでも

百夜車　　水無亭魯日石作

今ハ昔小野小町ハ美人の名高く世にきゝるゝ[illegible]ハ[illegible]

夫ぞ物ぜ中にも除草のおれ殺したけを考えたと両の袖
夜も雪は積も逃ひて車の掘に其数を書て九十九夜逃ひを
は恋叶ぬとて思ひ死せ〜れしと云九沼法女中まこれをポ
乃おそび〜事ぞ扨ぞ扨ぞ無ふ終におをて成ぬとい小町ぞて
局をよいひ其恨を逃ておれぐの家ハ消ておきや

雅名　坂考作

是も今〜昔ゐる人の生れ男子あきら名を非人にあてゐ〜ぐ
そく〜延命ことゆて早り〜非人をよび寄る且那ぬ乃
屋敷でござりまず外の用でもあれ悪ぐ名をつけて〜まれ

生れ生れたのちよりおふたりあて男の子てござりまず
ヨサたつしやな名ぐよ仕遣者なお名れら寛仁四年発願
アイヤぞんぞんぞん文七目番ひ名ぐよ元孫のし名発願
発とハ名ぞ石発毎年まいとしぞめでたんぞびこの子ハ
どんぞこびこびこびそ発ハたのこむごいとんヤ見目ハ
アコリ〜昔かゝ名で寿命の長い名ぐよ元孫のうアノ三
浦ハ大助ぞいふでござりまず三浦の大助とハ百六ッきまと
長いハなんぞ浦嶽太郎八十歳まと長ハなひか東方朔九
千歳まとござひ西の海さ〜と

妙薬

鶴聲楼作

コリヤアすゐ伯母よりの書成はたおやじ殿まいりるれとヤまずぶで出家をとりく脈をみまもるに病人ちがひこもりをのまをみさん見人あすゑ薬くとといそて帰ア三日来てごゆだんアイ洞事でござアまます。ドレ脈をみんせよこれ此きのふまりとの脈みるとといハごこもそこハえくまもあがデごらせてこるさこ夜ちつれまふみの四くよ足にむくみのいのぐこのあるのぐれまかよかうとおいてひ近へ友達ゆ来てごゆだおやじハさ他ちつそこ今ま年れアイ医者どのゆ祝のこハ丹だといつたらふ薬だといつさ

毎日赤くなる病だそこまでまるまるハもれゆ妙薬をもつくいるかゆ子僧ゆ疱瘡の時紅を塗ゆ薬ゆ紅ゆ丹上かくまるゆくと病人の色くなるとおやじちこ他ちまもるゆだまるさくいさ川せく孫ゆ西てあるゆ凡だゆまもをかんで血ゆふんとゆちゆせまやりくとい門のゆせそ墓血ゆ多ゆとおやじとの病ハ歩るもれゆ諸合だこ丹ゆ薬になてちゆ血ゆ出さ赤箱ハ是ぎりだ

野狐

一陽亭　秀翁作

今ハむゆ思合ゆて狐ゆ人を化すといふる武辺自慢の侍ゆ

せんとかの家へ行てまちいたる。十六七はの娘来り私ハ
向ふの村と云る者でござりますゆゑおつれ申そくだきり
ますといふと、ぬしハ此ていに任せて人をたぶらかす狐でハ
ないかと、ぬしハ女好だとつくそふまくたぶきれるものゝ
おなぜを毛〳〵と云バ忽男に化私ハ沼尻村者を人り狐の化
何とそ間々と言しぬる今ハ狐ごゝに居ると云へバ化ふ成。
モシハ侍ハ女ナリ又祖父に化さか古い〳〵といへどハ祖母に
ちゐるだでも狐だといふて去ようとさに狐ハ成そこの狐
已生捕にせるそと追ふれバ狐ハ叫ビ逃逃げて藪の

中へと入尾をとらへ引ぱ〳〵ゴリ〳〵とぬきつゝハ
なを見ぬ〳〵ちつぽぬけるゆゑそこをめに是を二番にせ
のゝしりつゝ百性ら急大根を抜いて

留れ王子

楽柿亭 喜丸作

今ハ昔留の王子をりしゆゑ女の拘らゐ出でやそのゝ入ばかり
てしかるゆゑ多くイヤ私ゆゑ者にらやてあ者にらけませ所が是に夫
ぶん拘ら入ますかゝ人金子千両ゆゑ有おゝ楽ますゝ人
物にさ入ゆゑ出たのゝ楽ゝり十日程ゆゑ留王子ゆゑ出て中
かゝちいきるかゝみなるもゆゑ出ハ夕アもコヨくと留まゝ

ごめんを申さんといひ、あめにくみまをとを袂をさげて、みぢ歳さ
さいんだるうだと大をだをぬいくまをたくをごうぜまをは
らいそうのあわびでござりますごうせさ勝に新ついて

みみ

こをを柿表婦作

吉原はなかの良とり毎日くくのみごん岩もものうねなるあとと
あももたつくなりて行友達ぐうををうとといいばうをうう
髪結床は市中にゆけてえをとういうう床の高ぐうにはバ
アイナ毎日はよりはに情のいのなかをでござりやすとみをを二朱来
おしてあをる来くかの男寄りうんと浦山しいかんにおのハ

あやとり歌ぐつ実ひて面白くるぐいのうをとあけてえれバ潮いろはを
男てさうをかるる汀のおりこバよめ伝是をおのハをうをしてまを笑
物なぐやがうるのをいをうをかうをうまんぐ人間に行ろき

三升婦女作

てしか

あの外をくかが邑兄女房婚の図へ寄りて帰りもおでもものうを
大沢ふくたびみるる湯へをいるをとい女をうれてあけど
入口ぐ出たををてうをせいをくいるうたうとといバ女も承知して
寄ればしくきまをバ分まをめとい湯の中にてを和の図会に逢
おそうの出るを帰ねといバアイ今日ハ婚の図くをれハおくたぐれを

をとゝ明るあかつき先ぶたつの号くてとゞくべくしてその内義の字を清くの
ハ、ゝろ丸さん何をぜゝだんをきるとゝいハゞこゝハごめんなさい
しがおみをうとゞんじて

芸事　　若葉の能登作

一字三百色の者年玉の事物一仕事の人を三人ゝたのんで筆をそ
ゝりゝ毎ゝ世ゝとゝ丹ハふじゆゝゝ丹おりげてあすゝゝく
礼申ますとゝハゞ人の男何さ字とゝ丹ハよく楷さ丹
筆をつまゝ丸ハ丸ます先口とゝ中共にのなゝ目とゝ中共
めゝたゝ耳とゝ中も同じる。鼻ハをゝ毛まで仕ります

のゝ行くさん九拾く。ハ年更ぐ見も男ハ道ゝゝ
いきやしたゝ小傍ゝ小ゝゝ小拾をつまて居るゝゝゝ
拾をゝんたゝ拾ゝ文ゝ文ゝゝ拾ゝ四文字と書て居るゝゝ
んゝゝとすたゝ孤でごゝゝりすとゝゝ孤に字の字を書くとゝ
ゝたゝゝゝゝ今ゝの子の字でゝざるとゝゝ中たゝゝとゝ
ゝハ高ゝ見ゝ行くさんおゝゝ子侍ゝゝ

孝行　　千鳥連作

今ハむかしすゝゝく藝ゝの母親ゝの事ゝ孝をゝむ義
ゝりとゝゝる者のゝゝ丸ハゝの心を見て除ゝゝ

竹の林をたづぬるに竹ばかりなれども一本もねぎりとれば無し孝子心天に通じざるなし又いつすしまり場てみんと考る其竹の林
はたしなれば桃乃木ばかりなるを桃の木竹といまつ枯を
考へ見るに見たけのみをとりに来るのにて
つゝもなきねく庭でハ世四孝の書ふゞ書れ中でさしあるを
おしさげるなれ中つゝたる日本は初よりどこおいつゞ先祖を
正立ちいゞ枯木に花を咲せるとつゝく所をぶらけられ
てさんゝ花の盛をみんをたゞ花〳〵おいてハ子供ゞ桃乃木
柿の木とたづねてこれハ実の中うゝ養を遣て者に行れ

られ花〳〵ゆゞ実つゝだと呼を行らずて仲方一とゝ相流して
あいつゝにゝてハ生まゝ改めしたハ張られ有りと積ていり石へ
又箕笠に涙を持ふ子を抱けのゝとてゝど婦ハ結ゞまたる
笠ゞよりと立天ゞ有りのゞ有りて又婦ハ二本ゞ有前後
初る花に一所買ハ竹の子孝行とのも出るゞ有すゞずいの四
下かゝ二尺ゞ有り其竹の子尻をつゝ花ゞ有るかゝ節〳〵孝行
つゝりまてゞ出ゞ有ゞ〳〵ゞ子おやと涙を知いゞ有ゞ人旦ゞ有
孝ゞ思ゞ有ゞ人ゞ大ゞ生さん褒前ハいりゞ有ゞ

七十二候

扇雀亭百人作

言葉は居つゞけの安く仲は所ゝとりおとり物に蛤乃手島焼を持て
くるゝこいりハくゝ拙ら事ゝ萑園中に入く蛤と云ゝ一つのゝ小ゝと云
あるる女ゝ広がもとゝ所のもゝ物ゝ皆に成るとゝ云ゝもゝ人のゝ久遠ひ
なしのさゝ七十二候の内にゝ〳〵〳〵から乃ら有ら看書記て学ぶ
田蔵化して鶉と成芋虫ゝ変て蛍と成るゝ松虫ゝ鈴虫ゝ
其外虫も色〳〵変化せる拙ゝとゝ側に彩造ゝ人ゝ
きゝり毛花ハ毛虫毛ゝ多たのゝ人

加賀好　仙路亭　芦廬翠作

子供にも色〳〵ゝ好ゝ有る拙にて高人やの子雅十三才使に出ゝと

一所ゝ迄ゝ歩行ゝと木戸際ゝ馬車ゝ馳草迄ゝ出ゝ二百て
ごゝり出ゝ百五十にまゝ出ゝ九ゝ家ゝ出る且ゝ乃ゝ
のゝ出ゝ出ゝのゝ住ゝ色ゝ〳〵見ゝ出ゝ持ゝ出ゝ
のゝ出ゝ色ゝ〳〵ゝ物ゝ色ゝ住ゝ拙ゝ有ゝ
拙ゝ使ゝ有ゝ拙ゝ拙ゝ出ゝ拙ゝ出ゝ
ゝ出ゝ九ゝ人ゝ出ゝ拙ゝ出ゝ
住ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ

いゑ〳〵わたくしがおもふにはおごりでござりませぬ。おごりでおなく用て宜。
是一ツがむだ用ゆゑたくのごとくあんまり口をむだ用と何の用にたてる桜
餅りにいたさん

○

茶漬

吾友軒　米人作

武蔵野の御茶漬といふもの世上に名高くして殊の外くわれる友達が来る。
コレきついもんだ繁昌だから附に障子にむさしの御茶づけとかいてあるは
まりだと思ふ。アノ茶づけ此始りは浅草に海道茶漬といふ者ありしが茶
銀座町へ山吹茶漬が出る。ちやづけ始り宇治の茶を山吹といふが
有かゝる故に又たゞむさし也に家がある月につまる故有名元祖なり

ありともだがあれも海道茶漬が有かゝる木曾海道茶漬と去る名せ
まとめたが一度でこりごりせずとむさし野とつきあふはなるまい
ずんと喰せる思ひ月さき

田舎者

唐羅亭　萬象作

ごまらく成むすこをおやじ勘当せんといふを母親の情にて
田舎の乳母をたのみこゝろの者をあづけた。一二年もそっちでせわして
くれとの事。乳母の亭主もありがたがれど正直者なれば、むすこを
主人のごとく朝夕に海をとりもてなすむすこも始めの内は小づらひふ
自由なる内にだかり居ればのち〳〵は村のむすこどもとつれだつ者

萬人二三里ばかりとまりて泊りに行けば乳母も事ども相談して一ト先親且那とゝび言てかくしやがよりあるうちとゝ江戸へ来て母親の墓生ざりく若且那の母もを一年程いるに出家なほ他へ、おこしなるも来ず出ざりとめもしまるまづでござりやもぐおつけ時ぐいをしてくごぎりやかゝ色バかまりやさどつぞりくしやてくぐさりまやとゝいへば若じ公ぞど供めもしく二十五といまくひちくハ男ひまり起たりよあれも京ハにあぐおろてかすりおいたりとまあまりまの風ゆめも出るもいろいろ伊ぞりて仏まで公ものまやぬぐ皇祇ぶり位おそ

閑居

江戸ゆり田舎へ引込て医者久ぐるりて来ずくきのゝ松も生べで年所ゝ十ばんくぎウ立年共公郷やも出路腸で出目おこまます。やまくの母も只今でハ出らくでいるに出家なとのゝ出ゝそもおとかい江戸をりいちぐぐさみなりいそくでいぞんなりおとうなされ。夫ハ出ぐ人麦飯をたべく野ぐろい所におるゆへでもござりまを行るもふ月中ぐちさ其ゝりに夜服にゝろもいるまをぐ家来ハきくへなれども供もつれずとは。ん拵でござりまを。羽織も袖るしぐきくみまくぶところくへて出ぐできみ

[illegible]病人も白髪の歩行く年寄まで九拍子人参[illegible]
[illegible]に天福を入てもをかまをつゝで夫ちと[illegible]

紀輕人作

丁雅の無心

[illegible]る年季明丁雅下女[illegible]側へよつてハコヒ[illegible]どんたに
無[illegible]有[illegible]とだ[illegible]ぐ[illegible]ふぐんだ[illegible]ま[illegible]ぶ[illegible]ける迫
と[illegible]無舎りたびまんじゅ毋[illegible]ずゆ[illegible]
くつてえたひの所へ又おとんどん[illegible]ると[illegible]
たりにすぐ太[illegible]といふんだよといふもんだ[illegible]
[illegible]てふくゑこ[illegible]

[illegible]ぶといふるよ[illegible]
[illegible]ばけると何をあれ[illegible]
[illegible]

高尾

万亀亭 江戸住作

今ハ昔足利頼兼[illegible]尾が迫[illegible]
あげるよ[illegible]
時ぶし[illegible]
[illegible]のとがら[illegible]
[illegible]道哲[illegible]
[illegible]

ぬうさ流はやるアアアその遣音ごろで花火より外のるもの
花火いそるもれるにいるるはうアイいこんぶきみるかいはきんした

辻八卦　白雉館　卯雲作

鶴ひのどみ道卦えんけのうくちんん矢物侍人爰れん相
撞れ言下まで入どもものくくちんんと辻ふ言くく居るところ
犯おひぐ三三人つみくく事あて万へちるとまるてくんおくくがて
ぐえらんざぐ男れぐ犯らいるまか十二文ぐくくちんりてうくふべい
コしさぷよ事ん、ものしぐ子るくら男だともも女ともいんバてぐ君子
だともいるんと外やぐコるんバテおふみるくうん要あにも

して海とつけをきるこんぷものさもものさんあたるの
者ア拾へまとくハ十二文おしていつぷん看がいとりをへ卦きぐ
ずてコレいんまり安くもるみそんんのじやアねへぶんもんきふ
しだぷんぶ足遊しだおく産変ぐやてあれるこい月ゆく流業
れ駄アをしやアぐる。ぬハどこの男りだとんぐきもひあてくえや

家名　淺草菴　市人作

コレキ中ぎまで里遊にあいくらぐ五明楼へ月ととるぐどこのる
だ扇そのくさ五めの扇としく事ぐいるかく変くいのきぐ変ら
変人名ハ何と言文橋とバテるアテ五楼よ松葉やハ本公

葉樓よこ川ものまれるゆえして玉ゐハ何とゝいのれハ玉樓と
云ゑんの〳〵ものぜんやとゝいるとゝ云てゆこまの九龍をして城前〳〵ア
番多樓

閏七月　四丈真顔作

年どこにあるやとゝまれどヒタ九ゆる枝ものぜハすくみのうきとりとゝど
七月ゆ閏ゆうまて織女も二度逢のつまけよろこびゆずく〳〵ゆて牽
牛ゆ九ゆとり安にこれどハ牛もむそくのろつきらまくそくゆ門
墨ゆ四ツまかごゆて年もゝんそ色ゐも家根ゆ船ゆて天の川
乃岸にゆまもめゆ色ゆハ竹の枝ゆ短尺をおつけをきしの事

織女もとり〳〵ゆたくさまゆて天の川に待のゆ牽牛もゆごより糸
〳〵りのひ今宵ハ船にゆまる支度蚊ゆ出ゆ〳〵ゆ君ゆとい者
凡の神ゆ七ゆとて萌ゆの月やアうぜ〳〵と笑きたるさいとゝ見
ゆとあゆア是ゆハ天人ゆ蕎者を出ゆ申ゆと夫とりゆゆ庭ゆを
ゆいて糸天ゆ女ゆとゝいゆ織ゆ者ゆ七ゆ二ゆ天道九の赤星ゆ出ゆ
ゆた出〳〵とゝい言ゆ船の明星ゆ出ゆ申ゆをさゆ申ゆとゝいゆ
ゆそれハゆ申ゆ今ゆゆを之雷ゆだ出ゆ敷敵ゆ申ゆ

福蒔　馬作

今ハ昔甲子ゆ紀白蒔一丈来り見ゆる月十二丈子を産ゆその十

二丈ばかりと十二丈ばかりとなんく庭で三十丈にもなるとかくして
ちぢくく過くく大切なる嵐小判をとくとくまもる中嵐小判
小嵐小つぶをとりとりてくる後小小十両宮を車につんで嵐が
ないくまもるかつ宵に居ところ居所にあり三階へとる
と又二分くもいくもの金銭金をもこぶ戸をあけて底へおりて
をるとびさくもだんくく金がつんでなるこいつまるまで涙
大家根くまでもぶつとい地をついぐいるるにあるるのかつ
よう中に金をぶくぐ下をとれば大勢れ抜づみ車で金をつんで
帰るゴロハたまくぬで寶ゴロ

跋

いさ海しき物初鶏の夢。顔見勢のちがらくと。何十落上
形ごんも。三升見員の口癖ものを。遠いから者ハ落味ふ
きくを近くハ遠ぐ月小もとよ桃栗山人柿しも者抱
談海樓の戯淡もし浜。其秀逸を開発ハ影矢
を催しくお臍ゴ移東弦洲。嗚呼流草紙乃ゴ小弘ゴ
東ハ東列外ハ又早の姉女良西ハ新造。丸ま南ハキの宮
基ゴ物北ハ夜毎の北侠客ゴ色言の乃ゴ死千里ゴ行ゴ冊

もゝ貴き者の始め初学使命者志を発しと巻末に
ゝと雷子の恵智恵こゝろ有て花咲の翁もこがねくも是成
志ゝ書

書林

京都寺町通佛光寺　河内屋藤四郎
同　日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛
同　同　貳丁目　山城屋佐兵衛
同　同　貳丁目　須原屋新兵衛
同　吉傳馬町壹丁目　山城屋政吉
同　下谷御成道　英　蔵
同　大傳馬町貳丁目　丁子屋平兵衛
同　之神明前　岡田屋嘉七
同　和泉屋吉兵衛
大阪　淡路橋筋二丁目　河内屋藤兵衛
大阪　新橋筋博労町　河内屋茂兵衛扱